授業科目　社会福祉援助技術各論ⅠB

【担当教員名】	対象学年	2	対象学科	社会
横山豊治	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

＜概要＞

社会福祉援助技術各論Ⅰは、個人、家族あるいは小集団に直接働きかける社会福祉における援助技術（直接援助技術）を扱う。
各論ⅠBは、グループワーク（集団援助技術）の理論と技術の適用過程について学習する。

＜学習目標＞

1．グループワークの基本原理・原則について理解する。
2．グループワークの理論的発展、基本的枠組み、展開過程を理解する。
3．グループワークの基本的な技法、展開方法を習得する。

回数	授業計画又は学習の主題		SBO 番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	グループワークの意義	個人とグループを理解しグループワークの意義・定義について学ぶ		講義
2	グループワークの歴史	グループワークが成立した背景と発展の歴史、その定義について学ぶ		
3	グループワークの理論	グループワーク理論と最近の動向及び批判について学ぶ		
4	構造と機能（1）	グループワークの構成要素、グループワークを展開する原理を学ぶ		
5	構造と機能（2）	グループワークの構成要素のうち、特にプログラム活動を理解する		
6	原理・原則	グループワークを実践するうえの原理・原則について理解する		
7	展開過程（1）	グループワークの展開過程と用いられる援助技術について理解する		
8	展開過程（2）	展開過程と用いられる援助技術について事例をもとに理解する		
9	記録と評価	グループワークにおける記録の意義と評価の方法について学ぶ		
10	適用領域（1）	多様な分野におけるグループワークの実践事例を取り上げて学ぶ。		
11	適用領域（2）	多様な分野におけるグループワークの実践事例を取り上げて学ぶ。		
12	適用領域（3）	多様な分野におけるグループワークの実践事例を取り上げて学ぶ。		
13	適用領域（4）	多様な分野におけるグループワークの実践事例を取り上げて学ぶ。		
14	まとめ	全体を通してのまとめをする		

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書	『社会福祉援助技術論Ⅱ』（前期の各論ⅠAと同じ）	福祉士養成講座編集委員会編集	中央法規	2004年
参考書	『グループワーク論』	大塚達雄ほか	ミネルヴァ書房	1986年　2200円
	『グループワークの専門技術』	黒木保博ほか	中央法規	2001年　2500円
その他の資料	必要に応じてプリントを配布する			

【評価方法】
定期試験

【履修上の留意点】

社会福祉学科　専門